

## 夏かぜいろいろ!?

### 夏かぜとは?

夏場に流行するエンテロウイルスによる感染症を夏かぜといいます。突然の高熱で発症しますが、ほとんどは1~2日で自然に解熱します。エンテロウイルスには多くの型があり、発熱以外に発疹や水疱を伴うものもあります。

### 夏かぜにかかったら?

夏かぜはウイルス感染のため特効薬はありません。安静と十分な水分補給が大切です。水分がとれない、頭痛や嘔吐などの症状がある時は、病院を受診しましょう。



夏かぜの代表的なものに「ヘルパンギーナ」「手足口病」があります。

#### ヘルパンギーナ

高熱と喉の奥に水疱ができるのが特徴です。

#### 手足口病

手のひら、足の裏、口の中に2~3mmくらいの赤い発疹や水疱ができます。おしりやひざに水疱ができたり、最近では回復期に手や足の爪がはがれるようなタイプのものもあります。

※「ヘルパンギーナ」や「手足口病」の原因ウイルスはいくつかの型があるので、何度もかかることがあります。

#### 登園基準

解熱後1日以上経過し、普段の食事がとれるようになるまで。

#### のどが痛いときの食事

- ①やわらかい物  
噛まなくても食べられる物  
細かく切ったり、くたくたに煮る
- ②うす味の物  
濃い味、酸味、辛い味など刺激が強いものは×
- ③ぬるめの物  
熱さも刺激に!
- ④水分の多い物  
飲み込みやすい

おかゆ・煮込みうどんなどがいいですね。

栄養素も大事ですが、まずは食べられる物から少しずつ! 痛みがおさまってから増やしましょう。

### 病児保育室での感染症対策 ⑧ 集団保育での感染症対策

感染症対策で重要なことは、病原体がどこから排泄され(感染源)、どのような経路で他の人に感染するか(感染経路)を理解することです。実際には次の2点が大切です。

- ① 各感染症の感染経路を正しく理解して、感染経路別の感染対策(過去のにじいろ通信を参照して下さい)を実行しましょう。
- ② できるだけ標準予防策(汗以外の血液、便、尿などの湿性分泌物には病原菌が含まれるとみなして対応をすること)を実践しましょう。

※主な感染症の感染経路と登園基準の一覧表を別紙で配信します。

### 5月の利用状況

5月の利用人数は38人、キャンセルは14人、1日平均利用人数は1.8人でした。  
年齢は、1歳児が15人(40%)、2歳児8人(21%)、3歳児7人(18%)で、3歳児までの子どもがほとんどでした。病名では高熱がでる急性上気道炎が最も多く、次いで感染性胃腸炎が多く、その他扁桃炎、水痘、突発性発疹などがありました。

※市内の保育所でヘルパンギーナが流行していました。

### ☆ こんなあそびをしているよ ☆



シロツメクサで指輪を作ったよ

レールつなげて出発!



かえる  
ピョンピョン  
上手に跳ねるよ

